



## 支援を哲学するお話②

「子どもが中心であり、この中心の周りに諸々の営みが組織される。」  
「教育とは、過去の価値の伝達ではなく、未来の新しい価値の創造である」

ジョン・デューイ

デューイは19世紀～20世紀に活動をしていたアメリカの教育哲学者です。

「児童中心主義」とも呼ばれるこの考え方は、子ども自身の活動や自発性、経験、問題解決を大切にしています。これは、保育や教育で考えれば「環境設定」の重要性を説いているのだと捉えています。「環境」と言うと場所や教材を考えがちですが、私は「人」が一番の環境要因だと考えています。共に過ごす「仲間」と共に、私たち「大人」も重要な「環境」です。主体を子どもと考えた時に環境である私たち支援者が、子どもの成長に少しでも良い影響を与えられる様な関わりが出来ると良いですね。

また、子どもたちは5年後・10年後・20年後の未来を生きる事を考えると、私たちが過去に学んできた常識は通用しない社会になっている可能性も考えながら、知識や学力だけではない、自分で考え・自分で選び・自分で決定する為の方法や手段が大切になって行きます。

「自己肯定感」という言葉は今では一般的ですが、始めにこの言葉を使い始めたのは汐見稔幸先生です。汐見先生は東京大学名誉教授や白梅学園大学学長などを歴任し、今も保育や教育者の育成やメディアでも活躍をされています。私も何度か汐見先生の研修や講演に参加をした事があるのですが、深い話をとても分かりやすくお話をされる方でした。汐見先生は常に、子ども一人一人を「一人の人間」として同じ目線で語ります。汐見先生の話の聞いていると、同じ目線という事が「子どもの目線に下げて合わせる」という単純なものではなく、自然に合わさっている状態なのだと感じてしまいます。汐見先生は常に「共感する」事の大切さをお話されており、私たち支援者の基本的な視点として求められる力なのだと心掛けています。

汐見稔幸先生は様々な活動をしています。ご興味があれば。

臨床育児・保育研究会  
家族・保育デザイン研究所  
ぐうたら村

<http://ikuji-hoiku.net/index.html>  
<https://kahoken.net/>  
<https://gutara-v.net/>

児童通所課 嵯峨憲司



# キッズサポートにじいろ 活動報告

## にじいろ狭山活動紹介

11月3日(木)気持ちの良いお天気のもとお芋ほりを楽しみました。自分で掘ったお芋を嬉しそうに見せてくれる子ども達。掘り方を工夫し、約束を守って上手に掘れました。

11月23日(水)はにじいろ音楽コンサートを行いました。ホルンとピアノ連弾の演奏でみんなも参加して一緒に盛り上がりました。



## にじいろ入間活動紹介

11月3日(木)花木園ピクニック、11月23日(水)河川敷ウォーキングを行いました。

花木園では、ローラーすべり台や、いつの公園とは違った遊具で沢山遊んできました。昼食もシートを広げて、皆でお弁当を食べました。お外で食べるお弁当も一味違った味がしたかもしれませんね。

河川敷ウォーキングでは、雨天の為中止となり、室内での活動になりました。トランポリンを設置して、皆で順番にトランポリンで身体を沢山動かしました。



## 教材紹介

### 「なぞる」 えんぴつを持って文字を書くことにつ なげるための教材です



目で動きを追いながら、手を動かして決められた約束(曲線をなぞる)の中での動作の練習を行います。始点と終点を意識します。

(書き出しから止めるところの練習です)

文字を書くことに必要な、力の入れ加減、カーブに沿って手を動かすなど手先の細かい動きの練習にもなります。

- 1・指で溝をなぞる
- 2・指で凸面をなぞる
- 3・棒で溝をなぞる
- 4・えんぴつで線をなぞる